

令和6年度 学生による地域フィールドワーク研究助成 中間報告書

大学等名：富山大学藪谷研究室

代表学生：黒山真樹

指導教員：藪谷祐介

<p>研究題目 (応募部門)</p>	<p>耐震補強ワークショップによる地域住民の耐震化意識醸成：氷見市久目の学生シェアハウスを対象として 研究分野F：まちづくり（空き家の活用）</p>
<p>研究概要</p>	<p>令和6年能登半島地震により被害を受けた氷見市は、旧耐震の木造家屋も多く、今後の地震による建物の倒壊を防ぐためにも耐震補強を行うことが必要とされる。しかしながら富山県の旧耐震の住宅の67%が耐震補強されていないため、耐震化の意識醸成が求められる。そこで紐（高強度アラミド繊維）等を用いた自主施工可能な補強方法に着目し、氷見市久目の空き家を学生シェアハウスに改修する際に地域住民を対象にしたワークショップによって共同で施工する。それにより地域住民の耐震補強に対する意識を高めることを目的とする。本研究では、参加者を対象としたアンケート調査を用いてその効果を検証する。</p>
<p>これまでの活動状況と今後の活動予定 (300字程度)</p>	<p>氷見市久目の空き家を対象として耐震補強を行うことを目的に、壁量計算で必要な壁量の算出、補強を行う箇所の検討を行った。結果として木の筋交、構造用合板をそれぞれ1箇所、高強度アラミド繊維による紐の筋交を3箇所で耐震補強の施工を行うことにした。</p> <p>9/27(金)、9/28(土)に、地域住民の耐震化の意識醸成を目的に構造補強ワークショップを開催した。ワークショップの内容は、9/27(金)は木の筋かいと構造用合板の施工を行い、9/28(土)は高強度アラミド繊維による紐の筋交の施工を行った。参加者の人数は9/27(金)は11名、9/28(土)は9名であった。</p> <p>今後はアンケート分析、活動記録のまとめ、報告書作成を行う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>図1 構造用合板の設置の様子 図2 構造用合板の枠の作成の様子</p>



図 3 9/27 の集合写真

図 4 9/28 の集合写真

当初予定と変更がある場合は変更点を記述ください。

当初、耐震補強材料費（紐、木材、金物など）で12万円で計算していましたが、20万円に変更したいと考えています。理由は、構造計算をし、施工範囲が増えたことに加え、物価の値上がりに伴って予定していたよりも、単価が高くなったためです。今回の研究においては耐震補強材料の購入は必須であるため、変更を認めていただければ幸いです。なお、不足部分に関しては自己予算で対応する予定です。